

しまくとぅば普及関係者各位

沖縄語教育研究 9

沖縄語の伝統音の種類—その2、那覇言葉 (3枚)

2010年2月11日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語の伝統音について記述した文献はにたくさんあり、内容は様々です。本稿は、沖縄語は日本語の下位言語ではなく、日本語と関係を持つ独立言語であるという立場から、今後の沖縄語教育の参考のために、改めて沖縄語の音の種類を研究し、一覧にして示したものです。

研究の素材は「沖縄語辞典」(研究社、内間直仁・野原三義編著、以下「辞典」)の「那覇方言概説」の中の「1.2 拍と仮名表記」の項と「1.4 拍と語例」の項による伝統音の一覧(以下「一覧」)です。口語が主体ですが、古典文学の中から文語も引用しています。伝統音には日本語の音と同じ音も含まれます。一覧の音を日本語の50音表に準じた形式で、平仮名により本稿の2-3頁に表示(以下「本表」)しました。

一覧の音は整理された典型音であって、実際に使われるときは音に幅が生じます。本表の様式は便宜「その1、首里言葉」の様式に合わせてみました。本表の、標音記号と番号のみで仮名文字がない欄は、一覧に音がないか、他と重複していることを意味します。以下、本表から見出される幾つの特徴や所見を掲げます。

- (1) 母音系の音は、破裂音5、不破裂音5で、計10個見られる。
- (2) 現在の日本語の音のうち、いわゆる50音表の中の清音は、「つ」を除き47個ある。濁音のうち「ザズゼゾ、ダヅデド」はない。拗音は kja (キヤ)、kju (キュ)、kje (キエ)、kjo (キョ) の4音はなく、同様に gja (ギヤ) 行、nja (ニヤ) 行、mja (ミヤ) 行、rja (リヤ) 行の各4音もない。
- (3) 現在の日本語にない音の主なもの、沖縄文字(拡張仮名)によって一音一字で示した(本表の網掛けの字)。
- (4) 本表の「38 sju」、「40 sjo」、「120 bjo」は辞典の「1.2 拍と仮名表記」には音が出ているが、「1.4 拍と語例」には出していない。「38 sju」と「40 sjo」を語頭にもつ言葉は辞典にはない。「120 bjo」を語頭にもつ言葉は辞典にある。
- (5) 本表では「67 di」、「69 de」は音がないことになっているが、辞典には見出し語がある。
- (6) 辞典は那覇(昔の区域)の言葉を集めたものであるが、音韻は地域差や個人差や場面差によって変化する。那覇以外のしまくとぅばの中にも那覇言葉の音と同じ音が多く見られる。
- (7) 辞典の上では首里言葉にあつて那覇言葉にない音はたくさんある。那覇言葉にあつて首里言葉にない音は、ない。

(次頁は表)

沖縄語の伝統音と文字 - その2、那覇言葉

標音記号は沖縄語辞典(研究社、内間直仁・野原三義編著、以下「辞典」)による。様式は「その1、首里言葉」に合わせてある。標音記号は文字の系列上5列にしてある。網掛けは沖縄文字で、沖縄語独特の音および国語教育にない拗促音の幾つかを1字に設定したもの。辞典では見出し語は片仮名で書かれているが、本表では平仮名で表す。18、20など音は辞典の一覧にないか、他と重複するため、仮名文字を入れてない。

?a	?i	?u	?e	?o	1~5は基礎単語の語頭で破裂音。語頭以外では自然に破裂しなくなる。通常の日本語の音にほぼ同じ。
1 あ	2 い	3 う	4 え	5 お	
'a	'i	'u	'e	'o	7~10は基礎単語の語頭で不破裂音。
6 (-)	7 い	8 き	9 え	10 を	6の音は新規に文字を設けない。
ka	ki	ku	ke	ko	
11 か	12 き	13 く	14 け	15 こ	
kwa	kwi	kwu	kwe	kwo	
16 か	17 き	18	19 け	20	
ga	gi	gu	ge	go	
21 が	22 ぎ	23 ぐ	24 げ	25 ご	
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo	
26 が	27 ぎ	28	29 げ	30	
sa	ʃi	su	ʃe	so	「し」は37。「さしすそ」の位置に注意。「せ」はない。
31 さ	32	33 す	34	35 そ	
sja	si	sju	se	sjo	
36	37 し	38 しゅ	39 しえ	40 しょ	「しゃ」はない。37は単に「し」。×しい、×sji。39は×sje。
ʒa	ʒi	ʒu	ʒe	ʒo	「じ」は47。「ざずぜぞ」はない。
41	42	43	44	45	
za	zi	zu	ze	zo	
46 じゃ	47 じ	48 じゅ	49 じえ	50 じょ	47は単に「じ」。×じい。49は×ぜ。
ta	ti	tu	te	to	
51 た	52 ち	53 ちゅ	54 て	55 と	「ち」は57。「たちてと」の位置に注意。「つ」はない。
ca	ci	cu	ce	co	
56 ちゃ	57 ち	58 ちゅ	59 ちえ	60 ちよ	
ça	çi	çu	çe	ço	
61	62	63	64	65	
da	di	du	de	do	「だづでど」はない。「ぢ」は72。di、duもない。
66	67	68	69	70	
za	zi	zu	ze	zo	
71 ぢゃ	72 ぢ	73 ぢゅ	74 ぢえ	75 ぢよ	71~75の音は46~50に同じ。72は単に「ぢ」。×ぢい。
ʒa	ʒi	ʒu	ʒe	ʒo	
76	77	78	79	80	
na	ni	nu	ne	no	
81 な	82 に	83 ぬ	84 ね	85 の	
nja	nji	nju	nje	njo	
86	87	88	89	90	
ha	hi	hu	he	ho	
91 は	92 ひ	93 ふ	94 へ	95 ほ	
hwa	hwi	hwu	hwe	hwo	
96 っ	97 っ	98	99 っ	100	
ba	bi	bu	be	bo	
101 ば	102 び	103 ぶ	104 べ	105 ぼ	
pa	pi	pu	pe	po	
106 ぱ	107 ぴ	108 ぷ	109 ぺ	110 ぽ	

hja 111 ひゃ	hji 112	hju 113	hje 114	hjo 115 ひよ	
bja 116	bji 117	bju 118	bje 119	bjo 120 びよ	
pja 121	pji 122	pju 123	pje 124	pjo 125	
?ma 126	?mi 127	?mu 128	?me 129	?mo 130	破裂音はない。
ma 131 ま	mi 132 み	mu 133 む	me 134 め	mo 135 も	全て不破裂音だが、音素「'」を付けない。
mja 136	mji 137	mju 138	mje 139	mjo 140	
?ja 141 や	?ji 142	?ju 143	?je 144	?jo 145 じゃ	「143 ?ju」の音はない。
'ja 146 や	'ji 147	'ju 148 ぢ	'je 149	'jo 150 よ	
ra 151 ら	ri 152 り	ru 153 る	re 154 れ	ro 155 ろ	
?wa 156 あ	?wi 157 ぁ	?wu 158	?we 159 ぁ	?wo 160	
'wa 161 わ	'wi 162 ゐ	'wu 163	'we 164 ゑ	'wo 165	
?N 166 ん					
'N 167 ん					
Q 168 っ(促音)					

(外来音について)

沖縄語は現在、伝統語だけでなく、当該語圏外のしまくとぅばや日本語、世界の多くの国や地域の言葉が当該語の中で単語として使われ、しかも原語に近い音の維持のために、言文一致の書法を重んじる傾向もあって、当該語の音に多様な音が入り交ざるのを避けることはできない。それらの音に対しては当面、平仮名または片仮名で、現在の国語教育による拗促音などの書き方に準じて書くこととする。

注1 本表の6は「a」の不破裂音で、特別の文字を置かない。単語の語頭にくる例はほとんどない。単語の語頭以外では、音の破裂不破裂の区別をしないから「あ」を使ってよいが、ア列の長音の伸ばしの部分を「ー」で表す場合、「あ」を使うことは少ない。圏外語としては時々使われる。例えば人名で「よしあき」の「あ」は不破裂。

注2 本表の「166 ん」は昔、山内盛彬が工工四の中で使っている。

連絡先

〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1 船津好明

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp